

オンリーワン

この機関紙は、西条市障害者相談支援センターがパソコン就労をめざす障害当事者グループ「オンリーワン」に編集を委託し、協同で作成したものです。

バリアフリー
ペーパー

2月号
平成23年2月22日発行

偶数月発行

先日、コーチング実践講座に参加してきました。コーチングとは、「その人の夢や目標の実現をサポートするコミュニケーション・スキル」のことで、当日は自分自身を知ることから始まり、傾聴や質問のスキル、演習と盛りだくさんの研修で、何よりも元気をもらいました！

当日の研修で「円滑なコミュニケーションは、まずは自分自身を知り、感情に左右されることなく事実を捉えることが大切。」という言葉が印象的でした。物事をシンプルに素直に捉え、笑顔で毎日を送りたいものです♪そして身近にいる人の話をきちんと聴くこと、自分自身を見つめ直す時間を意識的に作っていきましょうと思いました。（支援センター 津島）

発達障害者支援セミナーを開催

～200人が参加！！安心して暮せる地域を考える～

発達障害について理解を促し、今後の西条市の支援体制を考えるセミナーを、2月5日（土）東予地方局で開催し、昨年に続く200名の参加に、意識の高さが伺えました。企画は、県、市、当センターほか、保護者団体のレイルネットワークやこども支援対策準備室など。



【好評だった当事者のあーさんによる講演】

前半は、発達障害の当事者であり、相談員としても活躍されているあーさんの講演。「保護者や支援者向けの本ばかりでなんで当事者向けの本がないの？」。独自の切り口で、わかりやすく具体的な解決方法を提示するために自ら作成した漫画を織り交ぜながら、障害とポジティブに向き合う事ができることを爽やかに語ってくれました。

後半は「安心して暮せる地域を創るために～さらなる絆を求めて～」のテーマに沿って、リハビリ、教育、保護者、こども支援対策準備室、各代表者による発表と意見交換により、理解を深めることができました。

調査では、東予地方局管内の保育所等に在籍する児童のうち、発達障害の診断を受けている子と気になる子を合わせると、12.2%に上るとのこと（発達障害ネットワーク事業が実施）。これは、発達障害への理解が増え、早期に発見し、個別に支援がなされようとする仕組みが出来つつあるからとも感じます。（支援センター 青野）



（イラスト しんすけ）

当事者の奮闘記 未来への足跡(あしあと)



パソコンで絵を描きコンテストで入選



今回は、四肢に障害を持ちながら、パソコンで絵を描きコンテストで入選した、西条市石田にお住まいの丹下香(かおり)さん(48歳)のお宅にお邪魔しました。
取材は、お母さんのアイコさん(78歳)にも協力していただきました。



取材風景(左から大岩・香さん・お母さん)

香さんは、お産のとき仮死状態で生まれたことで、脳性小児まひとなりました。取材には、車椅子といういつものスタイルで参加してくれました。

まず一番に感じたことは、お母さんの笑顔がすばらしいこと。重い障害を持った子の親とは、みじんも感じられないにこやかな顔でした。そして、隣に香さん。お母さんの返答が合っていればうなずき、違っていればすぐに「ちが〜う！」といったテンポのよい突っ込み。現在は、二人暮らしだそうです。普段の生活の中にも笑顔があふれているのだろうと、簡単に確信が持てました。

香さんは、これまで施設への入所はありません。現在通っているデイサービスは、10年くらいになるそうです。家の中のバリアフリーも、改修という形で工事がされていて、車いすでほとんどの移動が可能となっています。そのため、お母さんに用事があるときなども、一人で留守番されているとのこと。手の動く範囲が少なくても、車いすが進む「ノブ」の工夫。和風建築で「ふすま」や「引き戸」もありますが、実際に開けてみてビックリ！すごく軽いんです。車いすから指1本で開けられる軽さ。自宅での入浴も可能な設備が整っていました。



車いすのノブ

さて、パソコンを使う場面を見せてもらいました。今現在、力を入れられるのは左手の人差し指1本とのこと。マウスはどうするんだろ？キーボードは？などと考えながら、香さんの動きに注目していました。答えは、「穴」でした。マウスなら上下左右に斜めを入れた8方向の穴が。キーボードはすべての文字の上に穴のあいたボードがあり、打つ場所を決めたら押し込むと言った動作で、間違いのないように打てるそうです。



新しい絵に挑戦中



キーボードの穴



入選した富士山

そういった操作方法で、お絵かきソフトを使って絵を描いています。平成20年の全国肢体不自由児・者父母の会連合会の主催する、グラフィックアートコンテストで入選。本の表紙にも使われたそうです。今でこそパソコンですが、香さん世代の人にとって、パソコンを使うようになったのは、比較的最近のこと。10歳のころに、タイプライターを買ったのに始まり、のちにワープロそしてパソコンとなったわけです。教えてくれる人がいたことも忘れてはなりません。訪問教育に来てくれていた先生がいたし、今はパソボラネット*の黒河先生が月に1回来てくれることを楽しみにしているそうです。

*自宅へ訪問し、パソコンを教えてくれるボランティアがあります。対象者に規定がありますので、お問い合わせください。



取材後日、香さんから『夢』についてメールが届きました。原文のまま掲載します。

オンリーワンを見たら、石鎚ふれあいの里で障害者のキャンプがあることを知って初めて外出支援*を使ってヘルパーさんと参加しました。今まではどこかに行く時は母と一緒に連れて来てくれたのですが、今年の夏は暑かったから『山までよう行かん』と母が言ったので、ヘルパーさんに一緒に行ってもらいました。1日楽しかったです。

また、宮島行きは前々から希望でした。その事を知り合いの人に話したら、だんなさんをお願いをしてくれて、今年の秋にだんなさんの車で連れて行ってもらえることになりました。しかし、なかなか県外の旅行となると、一緒に行ってくれるヘルパーさんを見つけることは簡単ではありませんでした。初めてお願いした事業所のヘルパーさんが行ってくれました。お天気が良かったり、宮島の紅葉もきれいなかったので、忘れられない思い出になりましたが、まだまだ旅行などをサポートしてくれるヘルパーさんは少ないです。重度障害を持っていても、支援してくれる事業所があり、家族に気兼ねなく気軽に旅行が楽しめるようになったらいいなあと思いました。

そして私にはこれまで、母と北海道旅行へ行くことと、いつか私が書いた絵の個展をするという2つの夢がありました。しかし、2年前にオンリーワンで、重度の人でも1人暮らしをしているという事を知り、私でもできるかちょっと考えていましたが、やっぱり父が建てた家にずっと住んでいたい、1人暮らしができるかまだ分からないのですが、やってみようと思っています。3つの夢が叶うとは思っていませんが、1つだけでも叶ったらいいと思っています。

* 障害があり、1人での外出が不安な方に、外出を支援するサービスがあります。

しっかりした文章のメール、ありがとうございました。夢が叶うといいですね。これからも、元気で活躍して下さい。(大岩)



「シャッターアート」

国道11号線を走っていると、小松町にある天福寺の入り口にこの絵があります。そこは、「大頭の池さん」という宅老所の倉庫のシャッター。福岡市在住の田代映美さん(25歳)が、1年半かけて2回の帰省で描きあげたそうです。僕は描かれている3人と面識があったのですが、すごく特徴をつかんでいます。ハートに色が入ると完成とのことでした。(^^)v

撮影：おーちゃん



「白猪(しらい)の滝」

この滝は、東温市の重信川の上流にあります。西条市からだ、国道11号線を松山に向けて走り、桜三里を抜けた下り坂を左折します。撮影は、2月8日です。一番凍っていた時と比べると、かなり解けてはいるものの、自然の芸術を目の当たりにすると、とても雄大できれいでした。去年の夏が猛暑で、暖冬かと思っ
ていましたが、なんのなんのしっかり寒い冬になりました。

撮影：のぶちゃん

編集後記

春の足音がそこまで聞こえてきそうな季節になりました。昨年年末に機関紙オンリーワンと編集委員が愛媛新聞に掲載され、友人や知人から熱いエールを頂きました。発行を待ちわびてくれるような楽しく情報豊かな機関紙を作っていくために、今年も一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。

毎日暗いニュースが日本列島をかけめぐりますが、当事者には明るいニュースもあります。新たな障害者福祉施策を見直す迄の『つなぎ法』案が成立したことです。ポイントは「利用者負担の見直し」「障害者の範囲の拡大」「相談支援の充実」等、支援の幅が広がりました。少しずつではありますが、障害者にとって世の中が明るい方向に変化しているように思ひます。私達オンリーワンの編集委員も、機関紙を通して皆さんに情報の提供を行なうために頑張っ
て行きたいと思ひます。(梅野)



発行：西条市障害者相談支援センター（西条市社会福祉協議会）

編集：オンリーワン編集委員

〒799-1371 西条市周布 606 番地 1 西条市東予総合福祉センター内

TEL：0898-64-2600 (代) FAX：0898-64-3920 E-mail：soudan-saijo@galaxy.ocn.ne.jp